

めぐみイエス・キリスト教会

2022年2月27日(日) 第四主日礼拝
週報「通算第597号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌358「神なく望みなく」 p. 572

【交読文】 No.16 詩篇第42篇 p. 891

【賛美Ⅱ】 新聖歌428「キリストには代えられません」p. 690

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.20「神の国となる為に」

【聖書朗読】 使徒の働き15章6節～12節(新約p. 265上段)

【礼拝説教】 《シモン・ペテロの発言(教会会議そのⅡ)》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(使徒の働き15章6節～12節)

15:6 そこで使徒たちと長老たちは、この問題について協議するために集まった。

15:7 多くの論争があった後、ペテロが立って彼らに言った。「兄弟たち。ご存じのとおり、神は以前にあなたがたの中から私をお選びになり、異邦人が私の口から福音の言葉を聞いて信じるようにされました。

15:8 そして、人の心をご存じである神は、私たちに与えられたのと同じように、異邦人にも聖霊を与えて、彼らのために証しをされました。

15:9 私たちと彼らの間に何の差別もつけず、彼らの心を信仰によってきよめてくださったのです。

15:10 そうであるなら、なぜ今あなたがたは、私たちの先祖たちも私たちも負いきれなかつたくびきを、あの弟子たちの首に掛けて、神を試みるのですか。

15:11 私たちは、主イエスの恵みによって救われると信じていますが、あの人たちも同じなのです。」

15:12 すると、全会衆は静かになった。そして、バルナバとパウロが、神が彼らを通して異邦人の間で行われたしるしと不思議について話すのに、耳を傾けた。

●ポイント1.「シモン・ペテロによる異邦人の救い」とは？

※使徒の働き10章44節～48節「百人隊長コルネリウス」(新約p.255下段)

10:44 ペテロがなおもこれらのことを話し続けていると、み言葉を聞いていたすべての人々に、聖霊が下った。

10:45 割礼を受けている信者で、ペテロと一緒に来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたことに驚いた。

10:46 彼らが異言を語り、神を賛美するのを聞いたからである。するとペテロは言った。

10:47 「この人たちが水でバプテスマを受けるのを、だれが妨げることができるでしょうか。私たちと同じように聖霊を受けたのですから。」

10:48 ペテロはコルネリウスたちに命じて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けさせた。それから、彼らはペテロに願って、何日か滞在してもらった。

●ポイント2. 変えられたシモン・ペテロ

※ガラテヤ書2章11節～21節「ケファ(ペテロ)への叱責」(新約p.376上段)

●ポイント3. 「神様が用いられるうつつわ」とは？

※ピリピ人への手紙2章3節「使徒パウロの勧めから」 (新約p.396上段)

2:3 何事も利己的な思いや虚栄からするのではなく、へりくだって、互いに人を自分よりすぐれた者と思いなさい。

◎先週の礼拝メッセージの概要【第一回エルサレム教会会議】

《第一次伝道旅行を終えたパウロとバルナバは、しばらくの間、弟子たちと共にアンティオキア教会で過ごしました。この間に起こった事が、今日の箇所となります。さて、ある人々がエルサレム教会から下って来て、異邦人の兄弟たちに「モーセの慣習に従って割礼を受けなければ、あなたがたは救われない」と教えていました。それで、パウロやバルナバと彼らの間に激しい対立と論争が生じたのです。ガラテヤ書によりますと、シモン・ペテロがエルサレムからアンティオキアに下って来た頃に、ある人々も下って来たのです。ペテロはその人たちが来ると、割礼派の人々を恐れて異邦人から身を引き、離れて行きました。そして、他のユダヤ人たちも彼と一緒に本心を偽った行動をとり、バルナバまで、その偽りの行動に引き込まれてしまいました。それゆえ、混乱したアンティオキアの教会は、バルナバとパウロの二人をエルサレムに送ることにしたわけです。

かつて主イエスは、パリサイ人や律法学者たちに、モーセの律法について教えられました。「あなたは心を尽くし、命を尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。この二つの戒めに、旧約聖書の全体がかかっているのです。」と。

なぜなら、神は愛だからです。そして、最もその愛が示されたのが、主イエスの十字架なのです。主は弟子たちに新しい命令を与えられます。「私はあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」と。

これこそが、私たちキリスト者が、常に守り行なうべきものなのです。

パウロは、キリストの救いについてこう教えています。『この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。行ないによるものではありません。だれも誇ることの無い為です。』と。すべては恵みなのです。パウロとバルナバは、エルサレムに上り、使徒たち、長老たちと話し合うこととなります。》

◎お知らせ

※次回礼拝は3月6日(日)教会にて行ないます。また5月29日(日)・7月31日(日)・10月30日(日)の第五主日は、特別メッセージを語ります。